

DOC法による生分解度試験

要 約

Bu・N・Ka・I AQUAを検体として、OECD Guidelines for the Testing of Chemicals 301A(1992)を参考にして、生分解度試験を28日間実施した。

試験は、微生物源として標準活性汚泥の上澄み液及び二次処理水を用い、振とう培養法で培養し、溶存有機体炭素(以下「DOC」と略す。)を測定した。

試験の結果、検体の生分解度は83 %であった。